

研究課題名	大腸カプセル内視鏡の臨床的有用性についての研究
研究責任者名	広島大学病院内視鏡診療科 教授 田中 信治
研究期間	2018年10月17日(英)～2020年3月31日
対象者	2011年1月1日から2019年3月31日までに本院内視鏡診療科において大腸カプセル内視鏡検査を施行された患者さん
意義・目的	<p>大腸カプセル内視鏡検査は侵襲の少ない大腸検査として徐々に普及しつつありますが、大腸カプセル内視鏡と通常の大腸内視鏡の所見の対比も十分検証されているとは言えず、その実際の臨床的な有用性はわかっていません。</p> <p>また、大腸カプセル内視鏡検査を行う際には前処置・プースターとして下剤を内服していただいておりますが、その方法については各施設で様々であり、時に大量の下剤の内服により苦痛が生じることもあります。しかし、2014年の報告によれば大腸カプセル内視鏡検査の全大腸観察率は全国平均78% (371例/477例) と未だ低く、十分な大腸観察率を担保できる苦痛の少ない前処置・プースターについても未だ確立されたものではありません。我々は、大腸カプセル内視鏡検査の有用性、安全性および有用な下剤の使用方法を明らかにする事で、より適切な患者さんにより苦痛の少ない方法で大腸検査を提案できるようになると考えています。</p> <p>そこで今回、当院において大腸カプセル内視鏡を行なった症例を集積することで、大腸カプセル内視鏡の臨床的有用性を検証することを本研究の目的としました。</p> <p>また、各前処置・プースター別の全大腸観察率を解析して、より良い前処置・プースターの方法も検証します。</p>
方法	<p>この研究に使用する情報として、カルテから以下の情報を抽出し使用させていただきますが、あなたの個人情報は削除し、匿名化して、個人情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 患者基本情報：年齢、性別、身長、体重、生活歴（喫煙、飲酒等） 2) 血液検査 3) 大腸カプセル内視鏡検査に先行実施された消化管検査 4) 大腸カプセル内視鏡検査画像および所見 5) 大腸カプセル内視鏡検査の後に実施された消化管検査 6) 大腸カプセル内視鏡検査後施行された大腸病変に対する内視鏡治療で得られた病理組織検査結果 7) 発生した偶発症
共同研究機関	なし
試料・情報の管理責任者	広島大学病院内視鏡診療科 教授 田中 信治

個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5537

広島大学病院内視鏡診療科 教授 田中 信治

広島大学病院消化器代謝内科 医員 大谷 一郎